

保育内容の研究「表現」の単元計画

— 保育者養成のための —

中間 千恵子*・藤川 秋子・早川 寿々代**
佐々木 昌代・有馬 早苗***

The Study of and Curriculum Planning for Teaching “Expression” to Young Children

Chieko NAKAMA, Akiko FUJIKAWA
Suzuyo HAYAKAWA, Masayo SASAKI
and Sanae ARIMA

I. はじめに

幼稚園教育要領や保育所保育指針では、「環境を通して行う教育」と明示し、遊びを通しての総合的な指導によって、幼児の主体的な行動を促し、幼児期にふさわしい生活が展開されることをねらっている。

領域「表現」では造形、音楽、身体表現等が広義に捉えられており、多様な体験を通して豊かな感性、自己を表現する意欲、創造性を養うための「ねらい」や「内容」が示されている。

幼児期の表現活動については、「こころとからだの全般にわたる総合的、根源的、多面的な活動である」と云われるが、この“まるごとの表現”をもつ幼児を、まるごと生かすことが教育の本質だと考えられる。存在の最も根源的なところにかかわっているのが幼児の表現活動であり、幼児のいのちの躍動がそのままからだの動きとなって現れる。

これら幼児の実態を知り、活動させることは保育者の重大な役割である。

本研究は、保育者を育てる保育者養成大学のカリキュラムの重要性に着目し、上記の理念にたって単元計画を設定し、実践授業を行い、検証した授業研究の報告である。

II. 研究目的

「幼児の発達特性と、表現学習の意義と方法をつかむことができる保育者を養成する」ことをねらいとした単元計画を設定し、実践授業を行い、その成果をみようとするものである。即ち表1、表2に示す単元目標、ねらい、毎時の課題のめあて及び学習内容が学習者にどのように把握されているかを分析し、本単元計画の有効性をみようとするものである。

* 平成6年3月まで本学教授

** 平成6年3月まで本学助教授

*** 聖心ウルスラ学園短期大学講師

表1 保育内容の研究「表現I」

単元目標					・幼児教育に於ける「表現」の領域に関するねら ・イメージと動きのかかわりを体験させる ・幼児の発達と表現について理解し、幼児の活動		
時	ねらい	課題	本時のめあて		A. 表現的遊び		
			内容		1 伝承的・郷土的遊び		2 反応的遊び
			ゲーム的なもの	歌を伴うもの	スキップ かけ足 拍手等		
			じゃんけん せつせつせ 鬼ごっこ	フォークダンス			
1	身体を認識(全身部位)し運動を知る	・動きの変化や連続を知り、起伏や長さをつくってリズムカルに動く ○オリエンテーション ○表現についての講義	・本単元の計画を知り、表現について理解する ・リズムによってからだを一杯動かす	・じゃんけんぼん ・おちゃらかほい	・くつやさん ・タタロチカ ・キングーボールカ	・拭く ・はう ・ころがる ・立つ ・座る ・叩く	
2	・からだを投げ出して一杯動く ・歌遊び(ゲーム、伝承的なもの)をリズムカルに動き、楽しさを知る	○運動から ・走-止 ○運動の側からイメージにつなぐ	・いろいろな走り方、止まり方を知り、イメージにつないで変身する	・だるまさんがころんだ ・氷鬼	・茶つぼ ・ずいずいずつころぼし	・いろいろな走り方、止まり方	
3	・イメージと動きをつなぐ	○運動から ・走-跳-回(大きく、もっと大きく、小さく)	・動きから見つけたイメージで○○になって動く ・表したいイメージの動きを工夫する	・あわぶくたつた	・かごめかごめ ・ことしのぼたん	・いろいろな走り方、跳び方、回り方	
4		○イメージから ・お池のできごと ・くもり (新聞紙を使って題材のいろいろな場面を見つけ、表現する)	・多様なイメージを見つける ・動きになる面白い場面を見つけ、筋をつくって表現できる ・互いにみせ合い、よい動きがわかる		・らかんさん ・のぞきっこ		
5					・大きな栗の木の下で		
6	子どもの動きをどう引き出すか	・幼児に適した題材の選択 ・イメージのひろげ方 ・ことばかけの工夫	○運動から ・伸-縮 ・捻-回 ・日常動作、作業動作の課題化 叩く、踏む、ゆれる、倒れる、押す-引く、運ぶ、投げる	・伸-縮、捻-回の運動、方向、力他を変えることによって動きの感じが変わることを知る ・幼児に適したことばかけを工夫する	・お寺のおしょうさん ・むすんでひらいて	・ぬうていく ・線路は続くよ	
7				・日常、作業の諸動作を律動化して表現する楽しさを知る ・年少児にあった題材を見つける	・げんこつ山のためきさん	・あんたがたどこさ ・子とろ	
8	・集団の表現性を知る ・内容をより強化して表現できるようにする(イメージと動きの確認)	○運動から ・集まる-離れる	・集団で行くと、一人で行うのと違った表現の楽しさを知る ・年長児にあった題材を見つける		・花いちもんめ ・ひらいたひらいた		
9	・全体の構成を考えて作品づくりができる	○構成の課題 ・個-群-個	・表したいイメージの動きを見つけ、はこびを工夫する ・作品のまとめ方を知る		・通りゃんせ ・なべなべそこぬけ		
10	・鑑賞の視点がわかる ・作品づくりの体験から幼児へのアドバイスの仕方を知る	○グループによる作品づくり ・作品題材の決定 ・デッサン ・はこび方 ・伴奏の工夫(音や小物の工夫) ・中間発表-修正	・題を決め、ふさわしい動きが見つけられる ・各自のイメージを出し合いグループでまとめる ・題材に適したはこび方ができる ・よい作品が見分けられる ・グループで協力して発表できる			・曲によってほぐし	
11							
12							
13			○作品発表・評価	・作品をみる視点を理解する			

単元計画（一期分とする）

(原案作成：中間)

い及び内容を知らせる																
における保育者と幼児のかかわり方を学ぶ																
B. 表現（題材に応じた動き）																
C. 総合																
D. 理論																
E. 行事																
3物を使った遊び																
1 自然現象																
2 生活事象																
多領域との関連																
新聞紙	輪布	ひも	ふろしき	風船	お手玉	自然	季節	動物	植物	遊び	人と生活行事	物資	夢物語			
・新聞紙を使って遊ぶ 走って投げる かくれる からだであげる (頭, 背, 足等)					A. で行った遊びを日常のイメージにつなぐ ・じゃんけん→石, はさみ ・立つ→座る→シーソー ・拭く→鏡 ・叩く→音をさがす									・表現について ・ビデオ ・16mm	・入学式	
・布 ・ふろしき ・紙飛行機					・いろいろな動物 ・構成遊び（積み木） ・のりもの							・忍者				
					・火山の爆発 ・花火 ・波 ・動物の戦い ・落葉 ・木枯らし							・クレヨン の旅	・小鳥の 一日	・全体と関連づ ける	・ビデオ	・遠足
・新聞紙 ・段ボール ・ゴミ袋 ・トイレットペーパー ・牛乳パック					・雨 ・かたつむり ・雷 ・梅雨 ・蛙 ・シャボン玉 ・だんご虫 ・あめんぼう							・ロボッ ト	・素材を使って 見立てるもの をつくる			
													・グループ毎に 楽器による伴 奏をつけて, 発表する (夕立, お池の 動物)		・七夕 ・夏祭り	
・ゴムを使って					・いも虫 ・しゃくとり虫 ・フラミンゴ ・鶴 ・木の芽 ・ツル							・窓をつくろう ・鏡を拭く			・表現活動 における 幼児への かかわり 方	
					・いたずら風 ・窓と風 ・大地震							・働く人(消防士) ・スポーツ ・せんたく ・そうじ ・でこぼこ 道ののり もの		・劇遊びにつな ぐ (三匹の子豚)		
					・にわか雨 ・おたまじゃくし ・落葉の舞							・満員電車 ・大変だ ・祭り ・みこし ・じしゃく		・ブレーメンの 音楽隊		・祭り
					・春の○○ ・夏の○○ ・秋の○○ ・冬の○○ ・鳥							・分業-協同作業 -完成 ・時計		・グループで紙 芝居や段ボ ールによる製 作をして発表 する	・ビデオ	
・新聞紙を使ってほぐし					作品題材例 ・卵から生まれた○○(恐竜, 怪獣, 雪だるま) ・○○の旅行(魚, みつばち) ・○○ができるまで(アメ玉) ・現代社会 自然現象, 生活事象より選択									・森の事件 ・山のお祭り		
・風船, お手玉を使って ほぐし																

表2 平成5年度前期保育内容の研究「表現I」単元計画と実施

時	月日	学 習 内 容	時	月日	学 習 内 容
①	4 / 12	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・保育者養成カリキュラムの視点 ・幼児の表現活動の意味, 内容 	⑧	6 / 14	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の修正と練習, 発表 ・集-離 ・個-群
②	4 / 19	<ul style="list-style-type: none"> ・おちゃらかほい ・体でじゃんけん ・大きな栗の木の下で ・走-止 ・鏡, シーソー 	⑨	6 / 21	<ul style="list-style-type: none"> ・子とろ ・イメージから (パネルを使って) 買い物ごっこ
③	4 / 26	<ul style="list-style-type: none"> ・だるまさんがころんだ ・新聞紙を使って ・走-跳-回 ・忍者の修行 	⑩	6 / 28	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎に練習, みせ合い ・夏休み課題提示
④	5 / 10	<ul style="list-style-type: none"> ・講義とビデオ ・アンケート調査 	⑪	9 / 6	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み課題の作品づくり
⑤	5 / 17	<ul style="list-style-type: none"> ・走-跳-回 ・忍者の修行 	⑫	9 / 13	<ul style="list-style-type: none"> ・各班の作品発表 (テスト)
⑥	5 / 24	<ul style="list-style-type: none"> ・あがり目さがり目 ・走-止-倒 ・構成遊び ・窓をつくろう ・家をつくろう ・働く車 	⑬	9 / 20	<ul style="list-style-type: none"> ・個人作品発表 (テスト) 運動からイメージにつなぐ
⑦	6 / 7	<ul style="list-style-type: none"> ・働く車 ・家が建つ, そして... ・指導言語の工夫 			

III. 研究報告

1 対象

宮崎女子短期大学初等教育科1年生（平成5年度入学）51名，保育者養成のための必須科目「保育内容の研究 表現Ⅰ」の受講者である。本学における表現の授業科目は，身体表現活動を主とするものを表現Ⅰ，音楽的表現活動を表現Ⅱ，造形的表現活動を表現Ⅲとし，それぞれ1単位である。更に表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの担当教員によって総合的な学習を体験させる授業科目「表現指導法」が組まれている。

2 方法

表1，表2の単元計画による実践授業である。履修時間は1時間90分，期間は平成5年4月～9月の前期である。

計画作成については，実施可能授業時数が1単位12～13時間という厳しいなかで，学生に対して表現についての基礎知識や技能，保育者としての教育の方法等をどのように修得させるかに視点をおき，中間が原案を作成した。ついで，授業者中間・早川及び共同研究者によって条件を検討し，内容の選択，配列を行った。

◆単元計画作成の条件 表1に示す通り，単元目標のもと，具体的に次の3つのねらいをもった。

- ① 身体を認識し運動を知る，即ちイメージしやすいものを題材として身体の認識をはかる。
- ② イメージと動きのかかわりに於いて，幼児から動きをどう引き出すかを知らせる。
- ③ 自分の表現ができる。

◆学習内容を考える柱 A. 表現的な遊び，B. 表現，C. 総合として他領域との関連，D. 理論，E. 行事とした。

- ① 「A. 表現的な遊び」では，1 伝承的，郷土的遊び 2 音やリズムに反応して遊ぶもの 3 新聞紙，布等の物を使ったり，見立てて遊ぶもの ○ 伝承的，郷土的遊びではじゃんけん，せっせっせ，鬼遊び等，ゲーム的なものでスリルを楽しみ動き，動くこと自体を楽しむ即ち運動のもたらす快感を知ることのできるものとする。○ 文化財としての伝承的，郷土的な歌を伴う遊びやフォークダンス，を伝承していくことを知らせようとした。
- ② 「B. 表現」では，題材選択の柱として，様々な表現ができるような，イメージを多様にするため，生活の諸事象から多様な表現を引き出せるようにした。1 自然現象では自然，季節，動物，植物 2 生活事象では遊び，人と生活行事，物質，夢，物語，等から題材を選ぶようにした。生活のなかでの感動が動きとして表現できるよう，また自分の身体で自己表現できる動きとして実在化できるようにし，イメージと表現を深化させるように配慮した。
- ③ 「C. 多領域との関連」では，造形や音楽活動と特に関連づけ，パネルシアターや紙芝居を導入する等，表2に示す通りである。
- ④ 「D. 理論」では，表現の特質，幼児の環境について理解させ，ビデオ等の鑑賞を行った。
- ⑤ 友人とかかわりあうことにより，社会性が育つよう，個人としての表現のみでなく集団として表現できるよう，考慮した。

◆題材配列についての配慮

- ① 「身体を認識し運動を知る」の当初のねらいとかかわって，イメージからすぐ動きにできる

ような、鏡、忍者のようにイメージが単純で素直に動きにできるものから、より複雑な、そして、繊細な動きが予想されるものへと配列した。表1の、第4時の「雨」から第8時の「にわか雨」へ、第3時の「落葉」から第8時の「落葉の舞」へ等のように。

- ② 季節を考慮し、梅雨に、かたつむり、あめんぼ、蛙、秋には、祭り、みこし等、というように配列した。
- ③ 表1に示したねらい「自分の表現ができる」にかかわっては、より創造的なイメージを引き出すような題材とした。ここでは構成やはこびの要素も学習内容とした。
- ④ 伝承的な遊びは、単純から複雑へという考え方は取らず、毎時導入的扱いとして取り入れた。また、夏休みに課題を出し、まとめのテストとして作品発表を行った。

◆授業実践にあたって

- ① 毎時導入では、「体でじゃんけん」「大きな栗の木の下で」「子とろ」「まねっこしよう」「くっつきっこ」等の伝承的遊びや反応遊びを行い、リズムにのせ身体の認識や快感を体験させるようにした。
- ② 授業の実践にあたっては「楽しく、やさしく表現の本質に近づける学習」をねらって、イメージと運動との2方向から、学習内容を課題化し、イメージと運動を捉える共通の手がかりをもたせるようにした。
- ③ “おどる、つくる、みる”という表現運動の全体体験を1時間に含める1時間完結の授業を重ねて循環、漸進させる方法を取った。具体的にみると、授業前半では個人を主体として課題を与えて引き出す。即ち学生に自分の身体を意識させ、例えば、4/26の「走-跳-回」という運動からの課題では、「走-跳」の動きを極限にまで引き出し、さらに個人の選択が加わるように「もう一つ違った動き」「どこかへ走って」等変化させ動きを多様化させる。そして、イメージにつなぎ運動とイメージが脈絡をもち、個人の表現が容易にできるようにし、後半の作品づくりにつなぐようにした。
- ④ 指導で配慮した点は、毎時の授業では極限と多様化を主な方向としてすすめ、つまり精一杯極限まで動くようにし、題材がどのように運動化できるかを多様に見つけられるようにした。しかも、最も感動する場面や動きが“からだに残る”—表現したいことがまるごと表現できた—学習となるように配慮した。
- ⑤ 本単元学習のみとおしを知り、評価を可能にし、学習の効率をあげることを目的として、次のことを実施した。
 - ・ 表3に示す授業計画と実施、各班の役割分担を単元のはじめに提出させた。
 - ・ 表4に示す毎時間の学習経過の記録と学習の内省記録を毎時提出させた。
- ⑥ 各班の活動では、表5に示す通り、学習内容及び学習活動の視点とその反省・評価を記録させた。
- ⑦ 本授業では6～8人の学習班を編成し、題材・イメージによっては更に2～3人の小グループによる学習を実施した。表6は題材「買い物ごっこ」についてイメージした各班の内容である。

表 4 授業反省記録 () 科 () 年 () 組 () 番
() 班 氏名 ()

月 日 曜 天候 () 場所 ()	
本時の班における役割・係 ()	
時間経過	<p>○学習内容及び活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねらい, 内容を詳しく記入する。
	<p>○評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいがはっきりつかめたか, 又それを達成することができたか。 ・何が楽しかったか。 ・何が難しかったか。 ・何ができるようになったか。 ・自分で何を発見したか。
班反省	<ul style="list-style-type: none"> ・技能, 協力態度, 人間関係, 等全般にわたって記入する。

表5 各班の学習カード () 班

決めたテーマの一番おもしろいところ、いきいきと動きになるところを見つける

- ・何を一番に、どんなところを、どんな動きで、どの位の長さで、
- ・どんなはこび方で、等を話し合いで表現する。
- ・他の班との見せ合い後、注意された点等、反省とあわせて評価する。

学 習 内 容	反 省・評 価
A・予想される場面を3～4見つける ・イメージの出し合い ・イメージの選択 B・Aについて動きを見つける ・見つけた動きをつなぐ C・いきいきと動きができるように場面や動きのことばかけをつくる D・動きに対してつきたい口伴奏を見つける E・動きが多様になるよう、おもしろさが出るような変化をつける F はこび方 ・どの位の長さで ・繰り返しはどうするか ・強めたいところはどこか ・場面はどんな順序で ・群構成も考えて動く G・伴奏について H・班の役割	A) ・場面の設定は適当であったか ・質の違った動きの場面であったか B) ・動きが多様にできたか ・質の違った動きがいくつあったか C) ・ことばかけが的確であったか ・要を得たことばであったか D) ・口伴奏は動きにマッチしていたか E) ・変化のさせ方のどこがおもしろかったか ・変化ができたか F) ・はこび方のどこがよかったか ・どこがよくなかったか G) ・伴奏はどんなものを使ったか H) ・班の協力はよかったか

表6 題 材 と イ メ ー ジ

——「買い物ごっこ」における各班の内容——

1班	パラソルに揺れながら飛び魚を買いにゆく
2班	しゃぼん玉に乗って星を買いにゆく
3班	ラッコに乗って海へワカメを買いにゆく
4班	雲に乗って風船を買いにゆく
5班	キントン雲に乗って龍宮城に納豆を買いにゆく
6班	玉に乗ってアフリカ象を買いにゆく
7班	流れ星に乗って海に珊瑚礁を買いにゆく
8班	風に乗って海のお店に夏の忘れ物の貝を買いにゆく
9班	魔法のじゅうたんに乗ってリカちゃん人形を買いにゆく

表7- (1) 学習の内省 (具体例)

内 容		＋ (プラス)	－ (マイナス)
A 満足	1. 楽しい	「子とろ」は楽しい遊びであった	買い物ごっこはわけがわからず楽しめなかった
	2. よかった	友達の動きを見て勉強になることがたくさんあった	意見を出す人がいつも同じで残念
	3. 好き	得意の忍者で張り切った	
	4. 精一杯	体全体を使って表現し楽しかった	発表の日、思っていた動きが思うようにできなかった
	5. 意欲	もっといろんなことができるようになりたいと思った	発表になると他人まかせになりいけないと思う
B 創意	1. 動き	止まる体勢にもいろいろあった	保つ、耐えるが難しい
	2. イメージ	忍者の特徴をつかむことが大切	魔法のじゅうたんをどう表現するか迷った
	3. 動き・イメージ	体を使って表現することは、どんな特徴をもっているのかつかみやすくする	イメージから動きにするのが難しく、動物の特徴を動きで表すのは苦労した
	4. わかった	人間は一つのものに対する感じ方はそれぞれ違うから表現の仕方いろいろある	表現の仕方、一人ですか、みんなで一つのことをするか、それによって見え方が変わるのが難しい
C 達成	1. 動ける、見つけられる	想像したイメージと観察した動作を組み合わせればおもしろい動きができる	ものになりきり、細かいところまで表現できなかった
	2. できた、やれた	自分達の表現したかったことの代わりの伝わってとてもうれしかった	他の班の発表がとてもよく、自分達のがちっぽけなものに見えた
D 変容	・自分がどのように変わったか	一回目の表現では考えられないほどみんなの表現方法が豊かになった 表現することがとても楽しくなった	
E その他	・指導者としての意識、他	子どもに教える時もこんな指導の方法が必要だということを学びました 幼児は感じた、思ったことを体全体で表現するのだから、少しでも多くのいろいろな経験をさせてあげることが幼児の表現力を伸ばす方法だ	

表7-(2) 学習の内省

内容		時間	①4/12	②4/19	③4/26	④5/10	⑤5/17	⑥5/24	⑦6/7	⑧6/14	⑨6/21	⑩6/28	⑪9/6	⑫9/13	⑬9/20	
A 満足	1. 楽しい	+	0	40	32	0	11	14	3	11	39	5	2	9	6	
		-	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	
	2. よかった	+	0	12	13	6	7	7	12	22	7	3	4	26	33	
		-	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
	3. 好き	+	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4. 精一杯	+	0	8	3	0	3	7	2	14	10	1	5	18	8	
		-	0	0	1	0	4	1	1	1	3	0	0	0	5	
	5. 意欲	+	0	19	11	3	5	7	13	11	8	12	20	7	5	
		-	0	0	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	1	
B 創意	1. 動き	+	0	5	1	0	0	5	1	0	3	2	0	0	1	
		-	0	10	4	0	6	10	1	1	2	1	2	1	0	
	2. イメージ	+	0	1	4	0	3	3	3	0	3	2	0	0	0	
		-	0	4	4	0	3	0	0	1	5	2	1	2	0	
	3. 動き・イメージ	+	0	16	27	1	26	25	12	7	14	27	16	12	8	
		-	0	11	33	0	27	32	27	18	23	26	18	14	12	
	4. わかった	+	3	16	13	5	6	5	3	15	9	11	2	5	12	
		-	0	3	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2	1	
C 達成	1. 動ける, 見つけられる	+	0	0	2	0	0	2	0	0	0	1	1	1	1	
		-	0	2	1	0	1	0	0	1	1	0	1	0	2	
	2. できた, やれた	+	0	1	5	0	5	4	7	12	2	1	10	21	9	
		-	0	20	7	0	10	8	18	15	4	7	9	28	38	
D 変容	自分がどのように変わったか	0	5	5	0	4	2	2	6	2	2	6	5	13		
E その他	指導者としての意識, 他	8	27	19	15	11	4	2	2	23	2	0	0	6		

〔頻数〕

IV. 結果と考察

1 結果の処理について

◆ 今回の単元計画における実践授業では、「毎時の学習者の個人内省記録」、小作品発表の相互評価、自己評価を行わせ、本授業の成果をみるために、以下の手順で検証を試みた。

- ① 授業者および共同研究者で内省の視点を検討し、先行研究を参考に、カテゴリーを設定した。
- ② 授業の第①時から第⑬時における個人の内省を意味微分し、カテゴリー別に分類し、学習者の内省の実態にそうようにカテゴリーを再検討し、表7-(1)、(2)の通り下位カテゴリーを設定した。
- ③ 更に、学習者がねらいに対してどこまでせまれたか、どう意識しているかをみるために+ (プラス)、- (マイナス)の視点を設けた。
- ④ 学習者毎に分類結果の個人票を作成した。作成にあたっては、評価者が個人の主観に陥らぬよう2人以上の話し合いをもって作成した。
- ⑤ 個人票をもとに、授業毎のカテゴリー別集計結果を示したものが表8-(1)、(2)、カテゴリー毎に授業経過に従って示したものが表9-(1)、(2)である。

2 結果の考察

① A満足については、

- ・ A 1 + 楽しいは毎時にみられるが、特に4/19, 4/26, 6/21はその頻度が高い。ここでの学習内容は、「体でじゃんけん」「だるまさんがころんだ」「子とろ」等であり、共通してリズムに酔い、リズムカルに動くことの楽しさを体験している。4/26の「新聞紙を使って」は物を使用した遊びとして更に質の異なった動きの楽しさを体験している。
- ・ A 2 + よかったは単元の始めとグループによる作品づくりに頻度が高く、A 4 + 精一杯はA 2と同様の傾向で、作品発表の前時に頻度が高い。
- ・ A 5 + 意欲は4/19, 6/7, 9/6に頻度が高い。A 1 +と相まって身体を認識し、大筋活動の満足とグループで作品をつくるという仲間とかかわる学習のなかで意欲が生まれるものと考えられる。

「表現」において、学生に修得させたい学習内容に、学生の興味・関心も考慮して、教材選択や配列を意図したことによって、楽しい、よかった、精一杯、意欲等の授業に対する多様な満足感がえられたと考えられる。

② Bの創意については、

- ・ B 1～4を比較してみると、B 3 動き・イメージの頻度が特に高い。このことは授業に於いてイメージと運動の2方向から、学習内容を課題化し、イメージと運動を捉える共通の手がかりをもたせたことによるものと考えられる。
- ・ 「人それぞれ感じ方が違う」「ひとつのことでもいろいろの表現の仕方がある」等、発想の自由さと動きの多様さの認識が当初からみられる。
- ・ 「個と群のかかわりが解った」「一人ひとり違った動きをしないとおもしろくない」等、他と違った個々人の動きの表現の大事さや、グループにおける個と群のかかわりの大切さを理解した記述もみられる。

- ・ 土（プラス・マイナス）を比較してみると、4 わかったはプラス指向で、3 動き・イメージは土が拮抗している。3-の具体的な内省をみると、「じゅうたんが海に落ちていくところが難しい。パターン化していたのでもっとおもしろくするのが課題だ」「イメージを広げ、形としてはおもしろかったが、走る動きがうまくできなかった」等、イメージを動きとして具体的に運動化することを理解し、自分の表現を客観的にみている記述である。よりよい表現をめざす積極的な創意とみられる。

これらの記述は、表現欲求が動きとして実在化され、動きとイメージが不可分のものであることの認識によるものと考えられる。

表現学習では、感動する場面や動きが“からだに残る”まるごとの表現であることの重要性が再認された。

③ Cの達成の意識では、

- ・ C2+できた、やれたは、授業の経緯とともに高くなっている。
- ・ 実技の初回第②時、グループ発表の第⑧時、第⑫時、個人発表の第⑬時に、マイナスの頻度が高い。それぞれの代表的な内省をみると、第②時では「恥ずかしいという気持ちがあつて、なかなかうまく表現できない」、第⑧時では「どんなに話し合つて練習しても、納得のいく作品ができずあせつた」、第⑫時では「自分達の班は構成はいいが、その場面からどういふ場面にどのように動きに変化するか難しかった」、第⑬時では「発表の場では恥ずかしさを忘れ、そのものになりきって大きな動作をするのがよいことがわかったが、実際にはなかなかできなかった」のように、単なる恥ずかしさの意識から、学習内容の理解が深まり、達成度の高まりがうかがえる。

④ Dの変容については、

- ・ 毎時における始めと終わりの変容と単元を通しての変容がみられた。前者では、実技初回第②時での「表現は難しそうだし、恥ずかしいからいやだと思っていましたが、そんな気持ちはどこかにふっとんでいったようです」等である。後者は、第⑩時での「回を重ねる度にイメージが広がり、表現方法も上手にできているように思える」等の記述がみられる。指導者のことばかけで表現が容易になったことの実感や、恥ずかしさが徐々になくなり、自信をもって精一杯そのものになりきって表現できるようになる等、大きな変容がみられた。

⑤ Eの指導者としての意識は、

- ・ 授業の経過時によって頻度の差は大きいですが、楽しく行える学習、例えば第②時の「おちゃらかほい」「体でじゃんけん」「大きな栗の木の下で」、第⑨時の「子とろ」「パネルを使った買い物ごっこ」に対しては「子どもにやらせたい」等子どもとかかわることの記述が多くみられた。「実際、自分がそのものの動きを考え、やってみないと子ども達に何をどんな風に表してもらいたいか教えられないということを発見した」と、保育者自身が表現について研究、実践することの必要性を実感している。

◆本単元学習に於いて、○始めに単元計画と学習内容のみとおしをもたせ、○毎時の学習について、ねらいの視点や活動内容を明確にさせるために内省記録を行わせたことは、一人ひとりの学生が授業に対する意欲を喚起し、表現の意義と方法を修得するのに有効であった。単元計画の立案とともに、授業実践にあたって、学生に「学習のみとおし」をもたせることの重要性が確認された。

表 8 - (1) 学習の内省 (時間毎①~⑦)

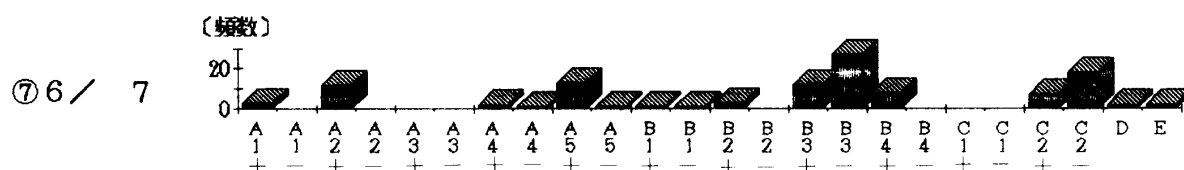
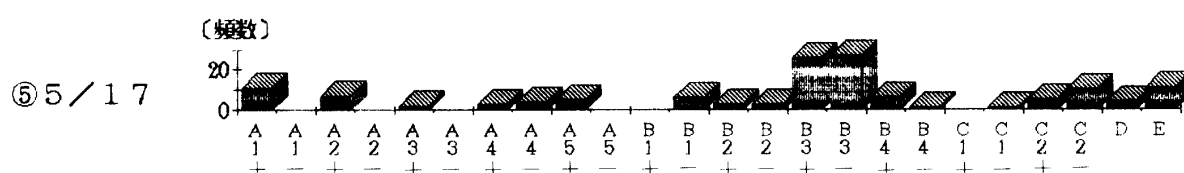
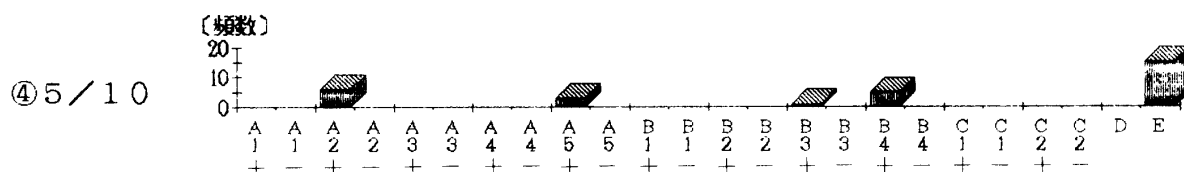
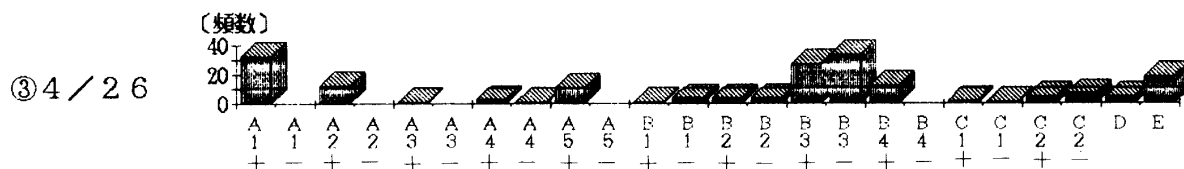
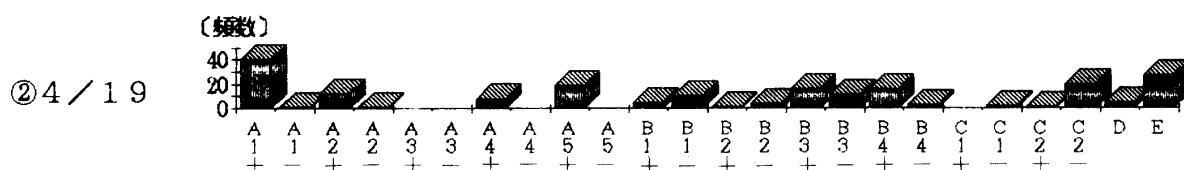
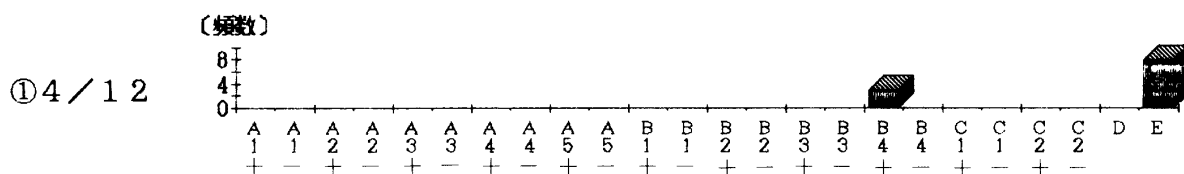


表 8 - (2) 学習の内省 (時間毎⑧~⑬)

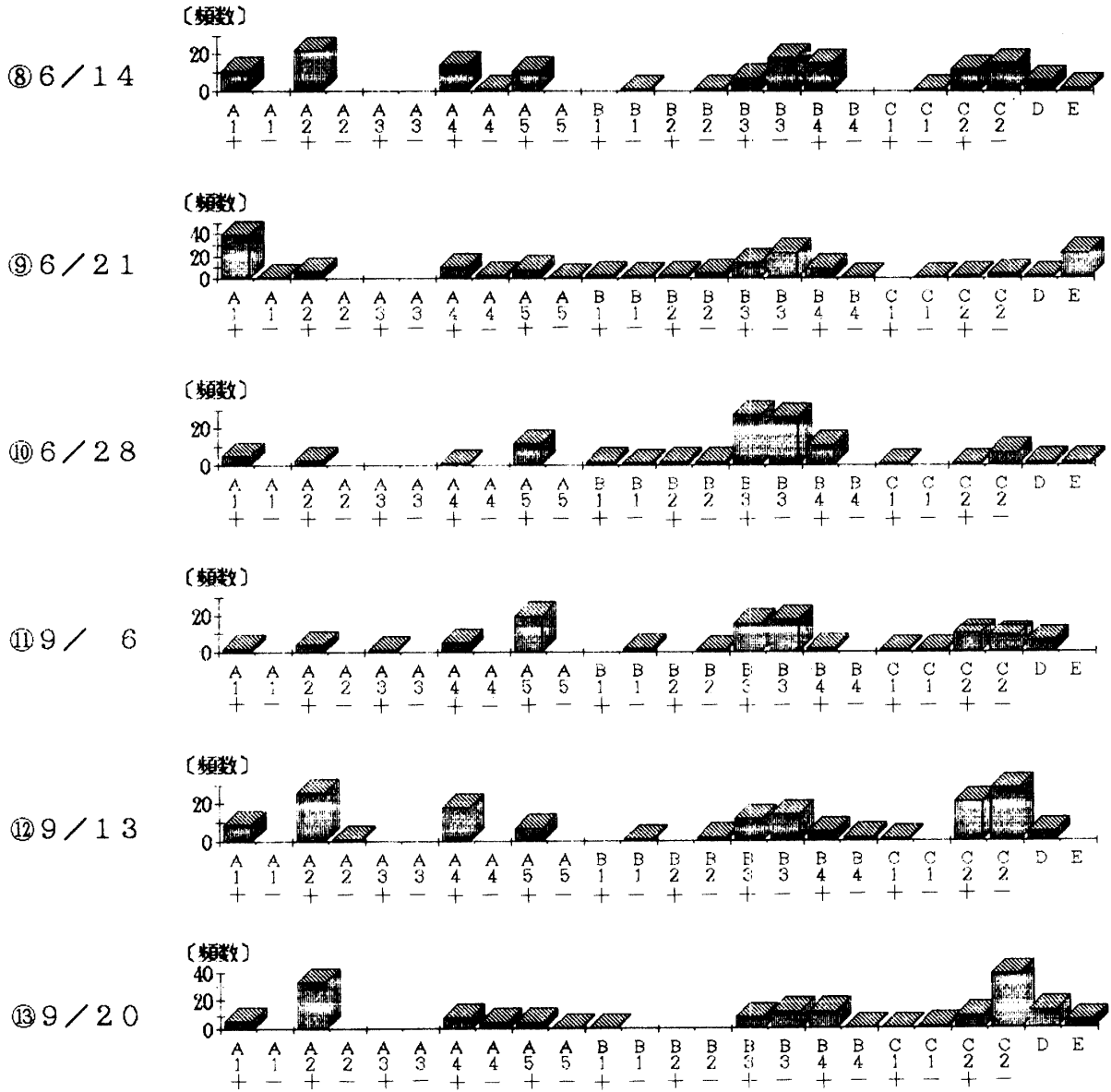


表 9 - (1) 学習の内省 (内容別A~C)

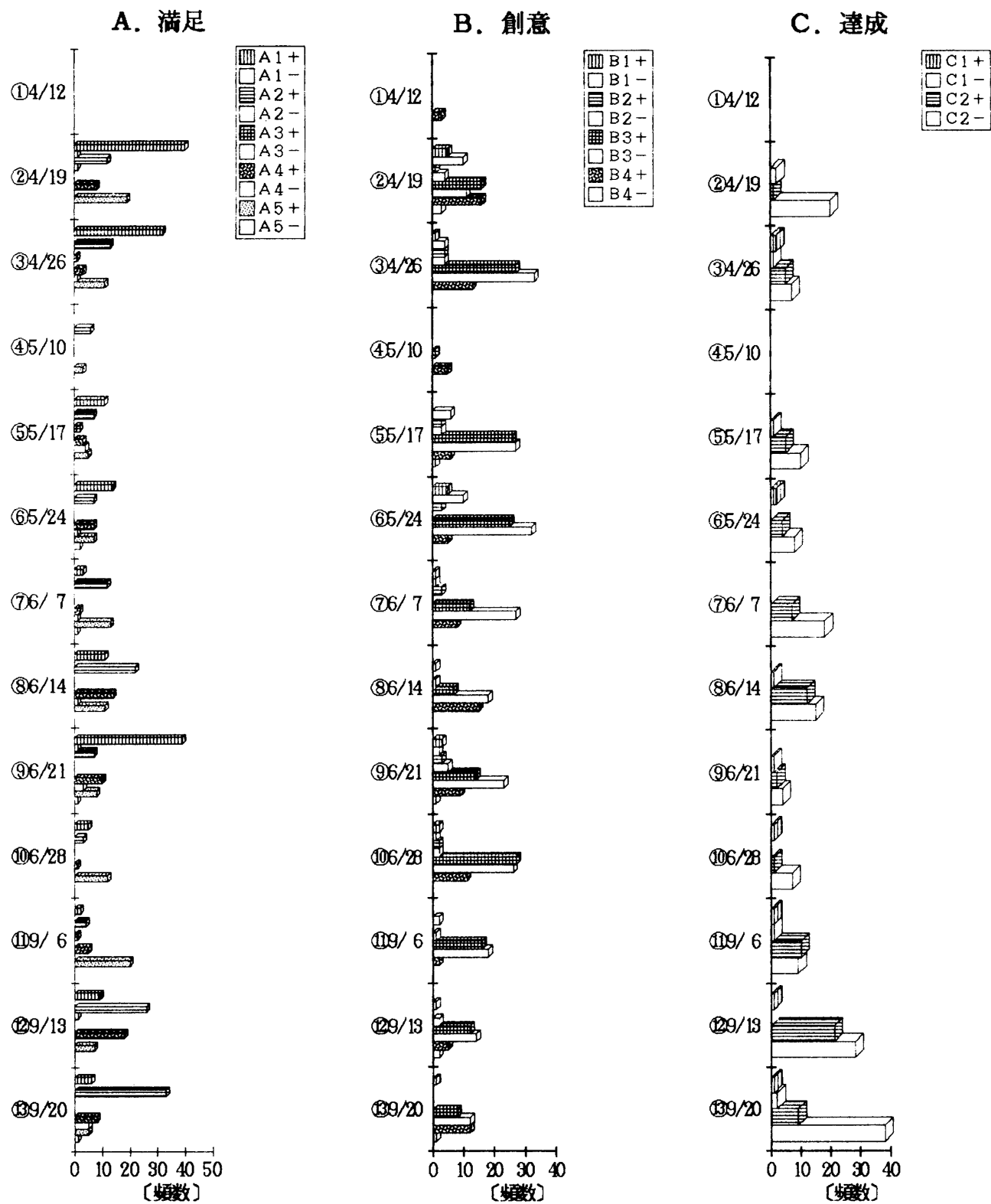


表9 - (2) 学習の内省 (内容別D, E)

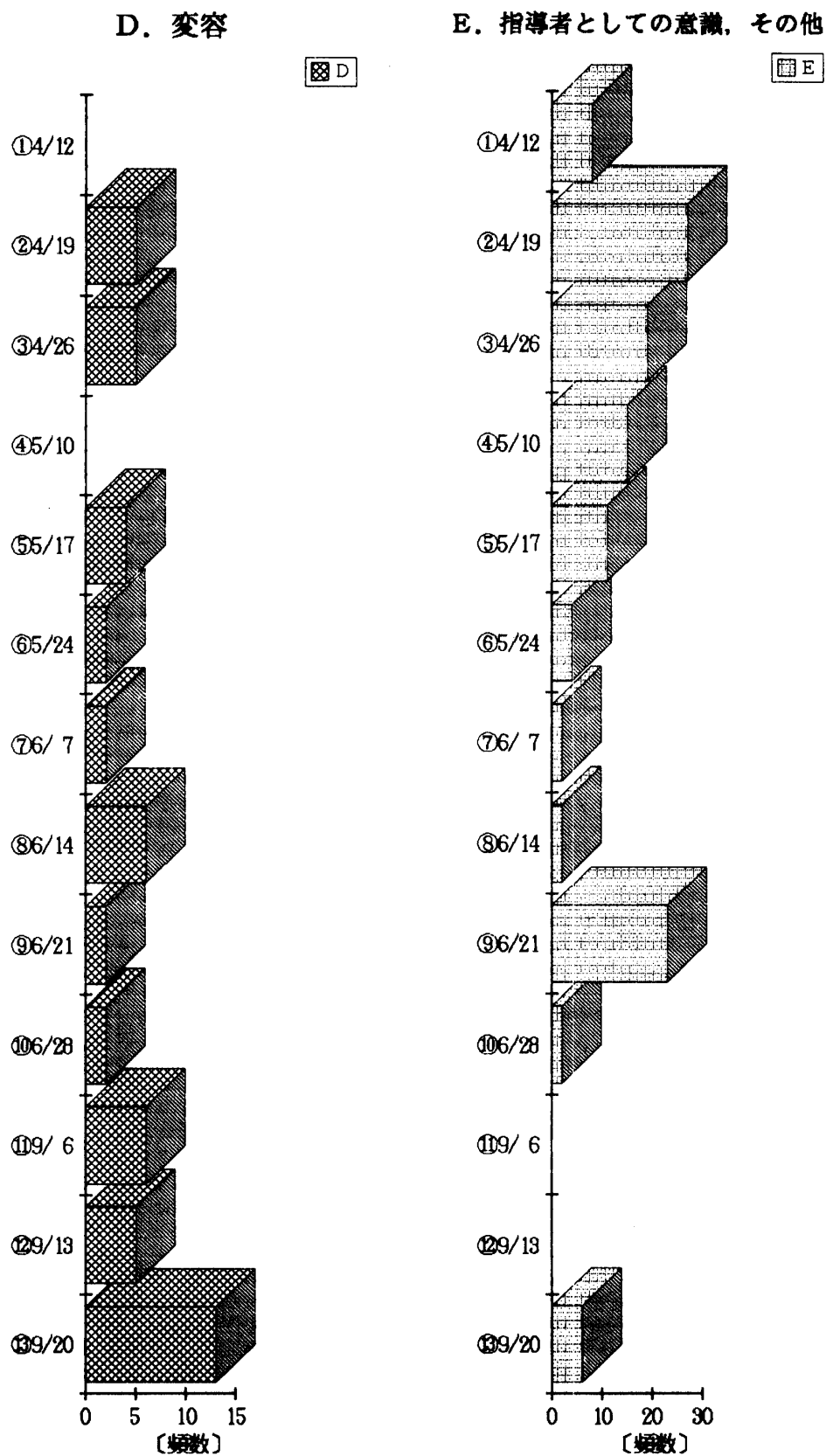


表10 — (1) 学習の内省 (個人の事例 S. N.)

内容	A 満足	B 創 意	C 達 成	D 変 容	E その他
<p>事例 ① ③ は授業時を示す)</p>	<p>② 体全体を使って表現し楽しかった ② 見ることはいい勉強になる ⑤ 班でいろいろ意見が出て、楽しく話し合うことができた ⑤ 幼児にかえって楽しむことができた ⑤ よく話し合い協力して表現できて楽しい授業だった ⑦ 一人一人が別々に表現したり、まとまったりした感じがよかった ⑦ 他の班を見て反省させられ私達の班にとってもよかった ⑧ よく話し合い意見を出し合って楽しく表現できたのでよかった ⑧ 他の班の表現も楽しくてわかりやすかった ⑨ 「子とろ」は楽しい遊びである ⑩ よい発表ができるようもう練習しよう</p>	<p>① 人間は一つのものに対する感じ方はそれぞれ違うから表現の仕方もある ① 子ども達は一つの動作に全身を使っている ② 一人一人考えている動作が異っていた ② いろいろな動作をすることによって、多くの表現ができることがわかった ③ 各人いろいろな動きの動物ができた ③ よく観察して特徴を知らなければならぬ ④ 豊かな表現には動きのメリハリをつけることが大切である ⑥ 急に止まることは難しい ⑥ 止まる体勢にもいろいろあった ⑥ 保つ、耐えるが難しい ⑥ 窓にもいろいろあるが出窓を表現した ⑥ 激しい風は体全体を大きく使って表現するとよい ⑦ 形にとらわれず一人一人大きな動作で特徴を表現すればよい ⑧ 話し合いの時メモしておいたのですぐに動くことができた ⑨ 細かい動作より大きな動作ができる方がよく表現できた ⑨ いろいろなリズムを合わせてすれば、もっと楽しくなる ⑨ 動物は表現しやすいが、魚、アイスcreamの表現はしにくい ⑨ 擬声語等を使うと表現しやすい ⑨ ものにとらわれず特徴をだいたいつかんで感じた通りに表現するのがよい ⑩ よく意見を出し合えて、動きもよくできた ⑩ 話し合いも大切だが、まずはよく体を動かしてみるのがよい ⑩ 表現するもののイメージを思い浮かべ、そのものになりきって大きな動作で表現するのがよい ⑩ 音楽と合わせるのに、わずかなタイミングが取りにくく難しかった ⑫ もっと広い空間を大きく使えればよかった ⑬ なるほどと納得できる表現もあったが、やはり、そのものになりきっているのが大切だ ⑭ 表現するには観察して知っていることが大切だ</p>	<p>③ 想像したイメージと観察した動作を組み合わせればおもしろい動きができる ⑤ 班がまとまって、協力し作品をつくり上げる事ができる ⑥ あまりにも考えこんで意見を出し合うことができなかった ⑦ 話し合い不十分、動きが細かく説明不足だったのでうまくいかなかった ⑩ 話し合いだけで終わってしまった ⑩ まず動くことがよいと思いつつ、あまりできなかつたことが残念だった ⑪ わずかな練習しかできずにみんなと合いませんかった ⑫ みんなの前に立った時緊張のあまり、自分が考えていた動きがいまいちできなかつた ⑬ 発表の場では恥ずかしさを忘れ、そのものになりきって大きな動作をするのがよいことがわかったが、実際にはなかなかできなかった ⑬ あまりよくなかったことは、恥ずかしさをまだ完全に捨てることができなかったこと</p>	<p>② 最初のテレはどこにいったかと思うくらい、最後は楽しく、体いっぱい表現できた</p>	<p>E その他 ① 幼稚園と保育所の違いがわかった ② 考えさせられることが多かった、表現に限らず、個人的にも社会的にも環境には問題がある</p>

表10 — (2) 学習の内省 (個人の事例 M. Y.)

内容	A 満足	B 創意	C 達成	D 変容	E その他
<p>事例 (1) (13) は授業時を示す)</p>	<p>②高校の時よりずっと楽しかった ②来週はもっと積極的に取り組みたい ②いろいろな動物のパターンをやったが、いろいろな動物が出てきてもおもしろかった ⑥走一止一倒がとてもおもしろいと感じた ⑥倒の時、思いっきり倒れてしまいい、足に青あざができた ⑦次回までにはきちんとしておこう ⑧緊張したが、自分なりに頑張った ⑨「子とろ」はとてもおもしろい ⑩積極的に体を使っていい動きを見つけた ⑪「海の中の動き」をほめて下さったのでうれしかった ⑪アドバイス (中間先生) を下さって助かった、来週の発表は頑張ろう ⑫自分なりによくやれた ⑬これからは、もの様子をできるだけ気をつけて見て、すぐ動きにできるようになりたい ⑬動きは他人と違っていたが、みんなの前に出ると頭の中が真っ白で何も覚えていないくらい緊張した</p>	<p>②イメージを考えるの何通りもの動きができてのびにびっくり ⑥みんな、それぞれいろいろな形で止まって思いっきり倒れていた ⑥風の音をタンバリンで表現するのはいい考えだ ⑦いろいろ動きを出すのが、これと違って動きを見つけたことができない ⑨チョコレート、リカちゃん人形とか実際に存在するものばかりしか浮かんでこなくて、とても悲しい気がした ⑩…というストーリーにしたのが、動きにするのが難しい ⑩表現の仕方、一人でするか、みんなでするか、それによって見え方が変わるのが難しい ⑪海の中にじゃうたんが落ちてからどうするか悩んだ、現実的なことを考えてしまったが、なかなか進まなかったが、魚、タコ、海藻の動きをした ⑫一つのもの表現するのは、こんなに気をつけて難しいのだということ初めてわかった</p>	<p>②恥ずかしさがあった、自分を捨てることができなかつた ⑤自分の想像力のなさが恥ずかしくなかつた ⑦他の班がとてもしばらく見えて、自分の動きがつまづき粗末でます動きがなくなつた ⑪夏休み後の初めての授業で動きを忘れていたが、体を動かしているうちに、少しずつ思い出して「体は覚えているんだなあ」と感心した ⑫自分達の表現したかったことのたいがい伝わってとてもうれしかった ⑬他人はすぐ上手に動いていたのに、どうしてこんなに違うのかも悔しかった</p>	<p>⑬自分の想像力・表現力のなさが恥ずかしくなかつた</p>	<p>②練習等は幼児にさせると喜ぶと思う ②多くのこのような表現をさせれば想像力の豊かな子どもになると思う ③新聞紙を使ってスパーマンになったり、紙になったり、あめんぼうになったり、幼児が喜ぶような表現だ ③幼児に指導する時には幼児もいっしょに考えようにして表現させることが大切だ ④幼児は感じた、思ったことを体全体で表現するのだから、少しでも多くのいろいろな経験をさせてあげることが幼児の表現力を伸ばす方法だ ④今は遊び仲間、自然と関わる機会が減少しているから、そういう機会を設けてあげたい ⑤幼児には小さい頃からいろいろ想像させて想像力を膨らませてあげることの重要性が身をもってわかつた ⑤幼児に表現させる時は「なげかけの言葉」が重要だ ⑥幼児は大喜びでタンバリンの音に合わせて動くと思う ⑧幼児の頃は自由に表現できると思う、その大切さを知らせ、何歳になってもできるよりにしてあげたい ⑨幼児は「子とろ」に夢中になって取り組むと思う ⑨「子とろ」はゲーム中心の授業にならないように指導するのは難しい、指導者の工夫が大切 ⑨問い掛け方式で子ども達に考えさせることが大切 ⑬「表現」はお肌の老化のように年令とともに失われていく、だから幼児の時期にたくさん表現をさせて、大人になっても表現できる力を残してあげたい。</p>

V. まとめ

学生の内省分析による単元計画及び実践授業の検証からは、◎本単元のねらい及び学習内容が学生に把握されたと考えられる。◎授業者の反省からは学生が生き生きと取り組み、学習内容とねらいが明確になったと考えられる。○表現的な遊びとしての内容は、身体を認識し、律動的な動きの楽しさを知らせることができた。○表現に於いては、運動の側からとイメージの側からの学習による循環、漸進によって、楽しく、容易に表現に接近させることができた。○1時間完結の課題を重ねて小作品につなぐ単元は、授業効率を高め、表現を楽しみ自主的な活動形態をもたらすことができた、と考えられる。

以上のことから、本単元計画の成果が認められた。

今回の単元計画は構造的、かつ系統的に作成したカリキュラムとして、学生の表現に関する意識や技能の定着をみることができたと考えられる。しかし、学生自身の表現能力に併せ、保育者として幼児の表現を引き出す教育法的な学習内容の設定についての課題は残った。

付記

- ・結果の図表作成にご協力いただいた大坪勝郎先生にお礼申し上げます。
- ・本研究は、平成6年5月14日、日本保育学会第47回大会において発表したものである。
- ・全九州大学女子体育研究会幼児部会所属の各大学で、今後実践、検討しようとするものである。

参考文献・資料

幼稚園教育要領

保育所保育指針

松本千代栄 幼児教育学全集6『情操と表現』第6章動きの表現 1971 小学館

松本千代栄 『表現の世界』 1985 大修館書店

松田岩男・松本千代栄監修 ダンスの教育学2『「表現運動」の学習』 1992 徳間書店

松本千代栄・中間千恵子他 「学習内容の細分化と動きの引き出し方」 『女子体育』21巻11号

中間千恵子 「みたこと身体で表現しよう—3・5歳の発達をふまえて—」 『女子体育』33巻4号

中間千恵子 「表現の教材づくり—保育者養成の立場から」 『女子体育』36巻4号

中間千恵子 「私の考えるすぐれた実践 表現運動における課題学習」 『学校体育』38巻14号

中間千恵子・松本千代栄 「表現運動の授業記録—課題学習と年間計画—」 日本体育学会第35回大会発表資料
〔1994年12月10日受理〕